

高木正朗

解くべき課題を自分の頭で考え、素材をあつめ、独自の結論をだすことができるよう、努力している。講義は比較宗教論と人口論を担当。研究テーマは宗教史、歴史人口学。自転車・フィットネスでからだを鍛え、精神の落ちつきをえられるよう心がけている。現在は、司馬遼太郎の本と犬の観察にこっている。

1. 専門演習の目標

日本と世界の経済はリーマンショック（2008年9月）から現在までの2年間で激変しました。その結果、先進諸国の従来の社会システム（生活水準）は、人口構造の急変もあり、維持できなくなった。世界と日本の社会構造の大変動（欲望＝貨幣の過剰、モラルの崩壊）について、第1に現状を、第2に理由を理解し、その再構築を著名な日本の先人たちの著書（一種の「遺書・遺言」）を参考に考えたい。

2. 専門演習で扱う課題と内容

演習の一貫した課題は、ゼミ生一人一人が「個人として自立する」ということ。自分の頭で考え、論理をくみため、他者を真剣に説得できること。他方で、他者の主張・心情・苦しみに耳をかたむける力を養うこと。具体的には、

第1に、きびしい現状（われわれの「立ち位置」）を理解するため、各自が最新のニュースを新聞・雑誌・webなどから収集・蓄積、自分が「これだ」と直感する主題（解くべき課題）を定める。

第2に、先人の著書を、「自分の直感を支持・補強しているか否か」とい視点で、探す（昨今の事情から、多数あり）。第3に、自分が選びとった著書を批判的に検討・要約。ゼミ生の前でプレゼンして議論し、自分を鍛える。

このプロセスを最低3回おこなえば、人間的力量の裾野をひろげ・深めることができる。詳細は、2011年4月に話しあって決めたい。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期は、現状理解のための情報収集、文献確定、プレゼンまでを、一通りおこなう。

3回生後期は、担当者が自信をもって勧めることができる、森嶋通夫の著書を勉強してはどうか。

4回生前・後期は、各自が主題をしぼり、卒業レポートを作成する。卒業レポートの最終目的は、「自分の主張を、自分のことばで、論理的に書くことから」を身に付けることです。

4. 必要とする知識

「知識はどこかにある」のではなく、「自分で創るもの」との自覚があれば、それでよいと思います。

5. 関連する分野・科目・知識

「比較宗教論」は必ず受講してください。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

森嶋通夫『なぜ日本は「成功」したか？』岩波書店2004年。あるいは『なぜ日本は没落するか』岩波現代文庫2010年。司馬遼太郎『この国のかたち』（1～6）文春文庫2009年。塩野七生『日本人ヘーリーダー編―』文春新書2010年。

7. 独自に付加する選考方法

ありません。

8. 受講生に望むこと

設問力（常に好奇心をもち「これは何だろう？」と問うことができる力）と、コミュニケーション力（他者・他団体の立場・心情を体験できる力）がある人、歓迎します。